

プログラム近況報告

2014年度(2013年10月1日～2014年9月30日)

World Vision

この子を救う。未来を救う。

エチオピア連邦民主共和国

ゴンダール・ズリア地域開発プログラム(ETH-182258)



6頭の羊が13頭に増えました

チャイルドストーリー

羊の飼育を始め、収入が向上しました

ゴンダール・ズリア地域開発プログラム(以下、ADP)の支援地域で暮らすジェマル君の父親は、伝統的な織物の職人として働いていますが、収入は少なく、ジェマル君を含む4人の子どもたちが十分な食料や衣服を得、学校に通うのは困難でした。しかし、ジェマル君がワールド・ビジョン(以下、WV)のチャイルドとして登録され、支援を受けるようになってから、地域の中でも特に貧しかった家族の生活が改善し始めました。家族の収入向上のために6頭の羊が提供され、ジェマル君も大切に世話をしました。羊は13頭に増え、うち2頭は家族の食料となり、1頭はジェマル君と兄弟の学用品や衣類を買うために売られました。

ジェマル君は家の近くの学校に歩いて通っています。学校にはWVの支援できれいなトイレができました。また、学校で衛生的な生活習慣について学び、食事の前後とトイレの後の手洗いを実践するようになりました。

「ご支援によって、私は子どもたちに栄養のあるものを食べさせ、服を買い、家賃を払い、自分の家を建てるため1区画の土地も買うことができました」と、ジェマル君の父親は嬉しそうに話してくれました。



支援で得た羊の世話をするジェマル君(11歳)

食料確保プロジェクト

年間を通じて食料を確保できるよう、農業の改良に取り組んでいます

\$77.9%の家庭が年間を通じて食料を確保できるようになりました

2014年度は、特に貧しい31世帯を対象に、エチオピアの主食であるテフという穀物の改良種や農具、農耕用の牛を配布し、近代的農法に必要なトレーニングを行いました。以前は、年間たった3カ月間の雨期にしか収穫することができませんでしたが、灌がいによって年間を通じて収穫を得られるようになりました。灌がい用水路は8kmにおよび、75世帯がこの水路から灌がい農業を行っています。これらの取り組みの結果、対象地域で年間を通じて食料を手に入れることができる世帯の割合が、3年前の76.4%から1.5%改善し、77.9%になりました。



収穫した玉ねぎとカボチャを手にする地域住民

水衛生プロジェクト

不衛生な水が原因で発生する下痢などの病気を防ぐ活動を行っています

水に関わる病気で医療機関にかかる子どもの数が、**537人**減りました

2014年度は、安全な水を飲むことができ、トイレを適切に利用できる人々の数を増やすことを目標に活動しました。活動の結果、安全な水を飲むことができる人々の割合は、60% (2013年度) から65% (2014年度) に増加しました。

トイレを利用している人の割合も、65% (2013年度) から91% (2014年度) にまで大きく改善しました。野外排泄をなくすことを主な目的とした住民主体の活動の効果が現れ、新たに10カ村で野外排泄がなくなりました。この取り組みにより、不衛生な水が原因で病気にかかり、医療サービスを受けた子どもの数は、3,478人 (2013年度) から2,941人 (2014年度) に減少しました。



支援により安全な水を得ることができるようになりました



支援地域の女性のストーリー

5歳の女の子を育てるムルさんは、ADPが行った女性のための小規模ビジネスと貯蓄に関する研修に参加しました。貯金箱の支援を受け、地域の小規模貯蓄組合に紹介してもらったムルさんは、まず100ブル (約530円) を貯蓄組合に預け、毎日5ブルずつ貯金箱に入れる形で貯金を始めました。「研修に参加して、計画的に貯金をし、家族の食料や衣服を賄っていくことの重要性を学びました」と語るムルさん。将来は学んだ知識を実践してビジネスも始めてみたいという意欲を持っています。

支援地域に住むムル・メコネンさん (28歳)



教育プロジェクト

すべての就学年齢の子どもたちが、質の高い教育を受けることを目指しています



学校を途中で中退する割合が**4.1%**に減りました

すべての就学年齢の子どもたちが質の高い教育を受けることができるよう、2014年度は学校の教室の増設を行うとともに、机とイスの整備を行いました。これまで教室は多くの子どもたちで混み合っていました。2014年度の増設により、1教室あたりの生徒数が49人に減り、適正な人数で授業を受けることができるようになりました。また、教師に対して指導法に関するトレーニングを実施したほか、親や地域住民に

対して教育の必要性についての啓発活動を行いました。これらの結果、2013年度は退学する生徒の割合が6.1%だったのに対し、2014年度は4.1%にまで減少しました。1年生で読み書き計算ができる生徒の割合は、2013年度は73.5%でしたが、2014年度は96.4%にまで向上しました。2～5年生の割合は、84.0% (2013年度) から91.7% (2014年度) に向上しました。



整備された教室で学ぶ小学生の子どもたち



教育に対する意識が高まり、幼稚園に通う子どもも増えています

保健プロジェクト

出産時の母親の死亡率、5歳未満の子どもの死亡率を減らすための取り組みが続いています



医療設備の整った場所で出産した母親の数が1年で約**90%**増えました

2014年度も、出産時の母親の死亡率と、5歳未満の子どもの死亡率を減らすための取り組みを継続しました。2014年度は、電気が通っていなかった保健センターにソーラーシステムを設置しました。これにより保健センターでは、患者に24時間サービスを提供できるようになりました。薬やワクチンも冷蔵庫で適切な温度で保存・管理できます。電灯が使えるようになり、夜間の出産のリスクが減ったほか、新生児のケアも適切にできるようになりました。この結果、保健センター等の設備の整った施設で出産する人が増え、2013年度の864人から、2014年度は1,635人(約90%増)となりました。



保健センターで診察の順番を待つ人々



妊婦健診の様子

ADPスタッフ・インタビュー



Q.ADPでどのような仕事をしていますか。

スポンサーシップ事業担当として、チャイルド・スポンサーと子どもたちの間の手紙や成長報告を通じた交流の促進や、子どもたちの健やかな成長を定期的に訪問し確認する業務を行っています。

Q.2014年の活動で困難だったことは何ですか。

成長報告に貼る写真の撮影を地域のボランティアと一緒にしています。良い写真を撮影するためにボランティアの訓練をしていますが、なかなか満足のいく写真が撮れない点が大変でした。

Q.この仕事を続ける原動力になっているものは何ですか。

地域の人々の生活が、困難はありつつも少しずつ支援によって改善していくのを見る時、この仕事に携わる喜びを感じます。



ゴンダール・ズリア ADP スタッフ マーザゲネット・アシャレ (29歳、右から4人目)

スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト



子どもの権利と責任について学ぶ子どもたち

チャイルドとの手紙の交流や毎年の成長報告などを通して、支援の成果を実感していただくための活動を行っています。そのため、チャイルドの成長を定期的にモニタリングし、支援事業がチャイルドとその家族、さらに地域の人々の生活をどのように改善しているのか確認を行っています。また、チャイルドの家族や地域の人たちが「子どもを中心とした開発」を理解し、その支援活動の中心を担っていくような啓発活動も行っています。

会計報告

ETH-182258

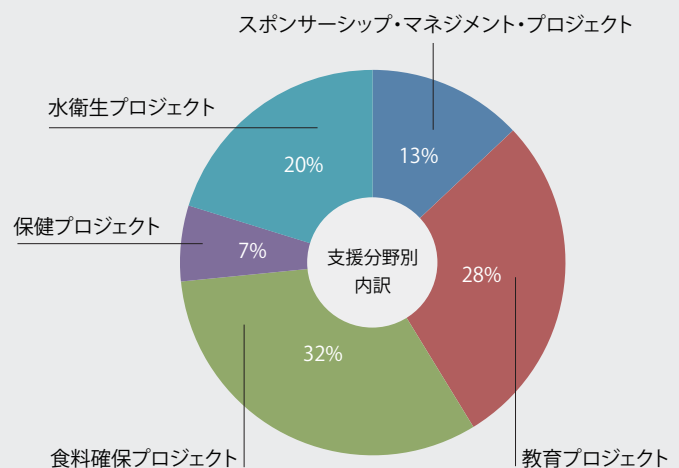
収支計算書 自 2013年 10月1日 至 2014年 9月30日

プログラム支援額(単位:円)

チャイルド・スポンサーシップ	61,242,144
当期支援額	61,242,144
前期繰越金	6,619,932
プログラム支援額合計	67,862,076

プログラム支出額

スポンサーシップ・マネジメント・プロジェクト	9,675,157
教育プロジェクト	21,075,313
食料確保プロジェクト	23,989,090
保健プロジェクト	4,737,035
水衛生プロジェクト	15,068,845
プログラム支出額合計	74,545,440
次期繰越額	-6,683,364



お問い合わせ

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン
 電話 : 03-5334-5351 (平日 9:30 ~ 17:00)
 FAX : 03-5334-5359

ワールド・ビジョン

検索

ホームページ : www.worldvision.jp
 e-mail : dservice@worldvision.or.jp